「もうたくさんです。どうか出してやってください。」と言いました。「なあんだ、こんなんでいいのか。」ゴーシュはセロを曲げて穴のところに手をあてて、待っていましたら、間もなく子供のねずみが出てきましたゴーシュは、黙ってそれをおろしてやりました。見るとすっかり目をつぶってブルブル震えていました。「どうだったの。気分はいいかい。子供のねずみは少しも返事をしないで、まだしばらく目をつぶったままブルブル震えていましたが、にわかに

起きあがって走りだしました。「ああ、よくなったんだ。ありがとうございます。ありがとうございます。」おっかさんのねずみも一緒に走っていましたがまもなくゴーシュの前に戻ってきて、しきりにお辞儀をしながら「ありがとうございます、ありがとうございます」と十ばかり言いました。ゴーシュは何だかかわいそうになって「おい、お前たちはパンは食べるのか」と聞きました。すると野ねずみはビックリしたようにキョロキョロあたりを見まわしてから、

「いえ、もうパンというものは小麦の粉をこねたり、蒸したりしてこしらえたもので、ふくふく膨らんでいて、おいしいものだそうでございますが、そうでなくても私どもはあなたのおうちから食べ物をいただいていま